令和６年１２月１１日

「除染土処分に関する学生ワークショップ」実施と活動報告会について

福島大学では浜通り地域をフィールドとして、本学の学生が学年・学類を超え、地域課題の解決を目指す「協働プロジェクト学修(※)」の１つ「除染土処分に関する学生ワークショップ」を行っています。
今年度は環境省環境再生・資源循環局との共催で、全国１２大学の大学生等２９名による全国初の学生ワークショップを実施しました。
また、本ワークショップ後に各地で続けられた主体的かつ多様な取り組みについて、１２月１５日（日）にオンライン併用での活動報告会を開催します。

協働プロジェクト学修(※)とは、担当教員と学生が地域の方々と連携して取り組む復興プロジェクトです。本プロジェクトでは、除染土の県外最終処分に向けた議論を活発にしていくことを目的に、環境省環境再生・資源循環局との共催で、令和６年９月１８日（水）～２２日（日）の５日間、全国初の学生主体によるワークショップを実施しました。

ワークショップには全国１２大学から２９名の大学生・大学院生が参加し、学生は中間貯蔵施設や長泥地区環境再生事業エリアを始めとする現地見学、行政職員や研究者による講義と対話、学生同士の議論などを通して学びを深めました。

また、このワークショップでの学びをもとに、ワークショップ後も学生が全国各地で続けてきた主体的かつ多様な取り組みについて発表する活動報告会を、令和６年１２月１５日（日）に開催します。
ぜひ活動報告会のご周知および当日のご取材をよろしくお願い申し上げます。

■活動報告会の概要

日　時　令和６年１２月１５日（日）　１３：３０～１６：００
会　場　キョウワグループ・テルサホール３階　中会議室「あづま」
（福島県福島市上町４－２５）　※ オンライン（ZOOM）での参加も可
主　催　除染土処分に関する学生ワークショップ実行委員会
（実行委員長　経済経営学類４年　天野俊）
対象者　どなたでも
申し込み方法　参観・取材ともにチラシのフォームから事前申し込み

※ 協働プロジェクト学修について

協働プロジェクト学修は、（公財）福島イノベーション・コースト構想推進機構による「大学等の『復興知』を活用した人材育成基盤構築事業」の一環として、南相馬市、大熊町、飯館村、川内村の４市町村をフィールドに実施しています。

（お問い合わせ先）
経済経営学類　教授　沼田大輔
メール：numata@econ.fukushima-u.ac.jp

教育推進機構「地域×データ」実践教育推進室
特任助教　鈴木敦己、特任専門員　齋藤毅
電　話：024-548-8251
メール：miraigaku@adb.fukushima-u.ac.jp

除染土処分に関する学生ワークショップ

活動報告会

参加申し込みはこちらから↓

2024年12月15日（日）

13時30分～16時00分

会場 キョウワグループ・テルサホール
3階 中会議室「あづま」（福島県福島市上町4-25）

主催 除染土処分に関する学生WS実行委員会

連絡先：福島大学「地域×データ」実践教育推進室mail:miraigaku@adb.fukushima-u.ac.jp

Zoomでの
参加も
可能です！

9月に福島県浜通りにて5日間にわたり開催された
「除染土処分に関する学生ワークショップ」
ワークショップを通じて私たち全国の学生29名が学び、議論し、考え、
そしてワークショップ後に実行した「除染土と未来」を発表します！

学生WS を9月18～22日（4泊5日）の日程で行いました！

中間貯蔵施設や長泥地区の見学、環境省との対話や学生同士の議論を通じて、除染土に対する理解を深めることができました。今後学生として何ができるかについて話し合い、私達学生が主体的に取り組んできたことを12月15日の報告会で発表したいと思います。

＜各班の意気込み＞

北海道班

北海道チームは、1人でも多くの人（特に若い世代）に除染土の現状を知ってもらい、考えを持ってもらう事を目標に活動しています。現在、大学での講義、イベントでのポスター展示・発表、学生イベントの主催を計画しています。

新一班

私たちの班では、除染土問題に対してジブンゴトとして捉えてもらうことを目標に、オリジナルのワークショップを開発しました！これを読んでいるあなたも参加してみたくなること間違いなしの楽しみながら学べる内容となってます！お楽しみに～！！

本州2班

この班は、東北大と福島大と慶応大と神戸市外大の学生で構成されています！
私たちは、キャラクターを通じて、除染土の問題を幅広い層の人たちに知ってもらうことを目的として活動しています！

東京班

私たちの班は、様々な地域の学生が集まるグループで、除染土を含む福島の震災について寺子屋形式の講演会を想定して準備を進めています。意義深い内容を伝えられるよう、最後まで全力で取り組みます！

本州4班

私たちの班では、主に学生に向けて除染土問題について一緒に考えてみようという趣旨の動画を制作しています。できる限り難しい言葉を使わず、分かりやすい動画を目指して制作に努めます！！

九州班

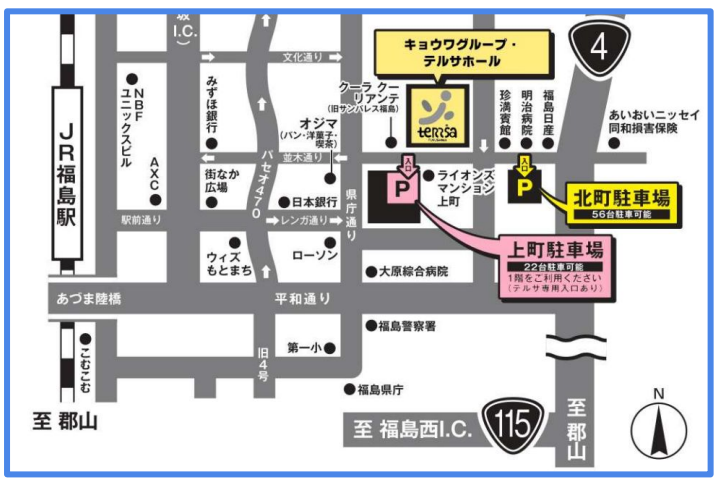
除染土について、海外の方にも知ってもらうため、福岡に留学に来ている高校生と、震災・津波・除染土についてディスカッションしました。良い報告ができるように頑張ります。

＜開催場所＞

キョウワグループ・テルサホール
中会議室（あづま）3階

住所：福島県福島市上町4-25
（福島駅東口より徒歩10分）

キョウワグループ・テルサホール　案内マップ
http://www.f-shinkoukousha.or.jp/terrsa/access.html



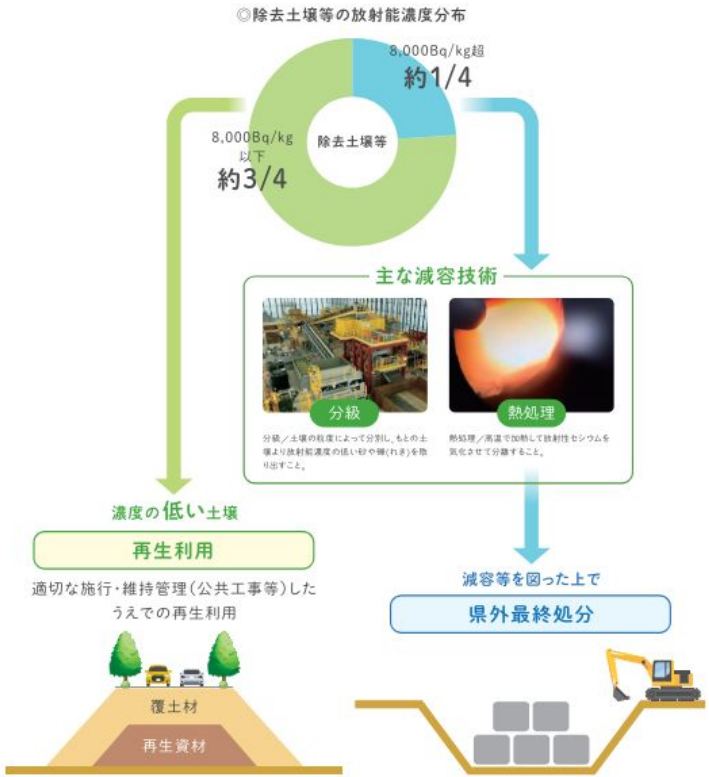
「除染土処分に関する学生ワークショップ」実施と活動報告会について

「除染土処分に関する学生ワークショップ」実行委員会
天野俊、尾形航祐、髙橋諭司
久保田苺吹、奥山泰冴

目次

1．学生ワークショップ開催の経緯
2．学生ワークショップの特徴
3．学生ワークショップのプログラムと意図
4．学生ワークショップの成果
5．学生ワークショップ後の活動

1．学生ワークショップ開催の経緯



中間貯蔵施設で保管されている、福島県内で発生した除去土壌（本ワークショップでは**除染土**と呼称）は、**2045年3月までに県外で最終処分**することが法律で明記

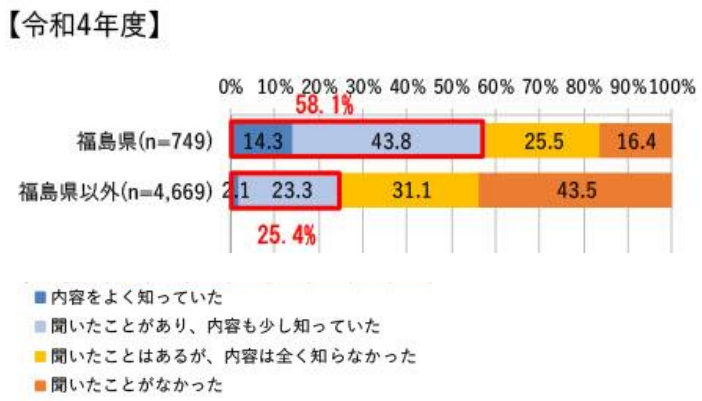
↓

最終処分の負担を減らすため、放射能濃度の低い土壌（約3/4）を**再生利用**

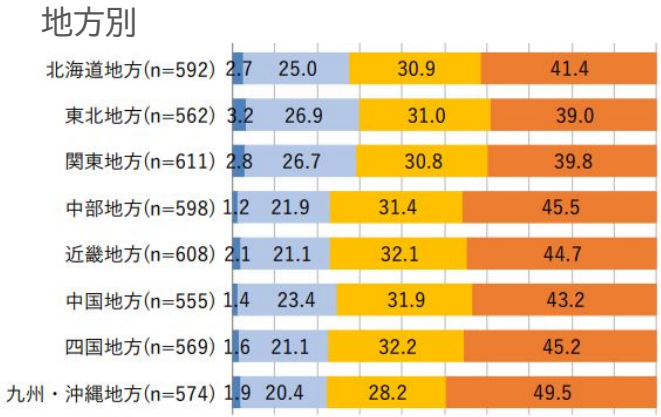
出典：環境省
http://josen.env.go.jp/chukanchozou/material/pdf/removed-soil_recycling_2304.pdf

1．学生ワークショップ開催の経緯

県外最終処分するという法律に対する認知度



→福島県内外で認知度に大きな差



出典：環境省
http://josen.env.go.jp/chukanchozou/facility/effort/investigative_commission/pdf/proceedings_230330_08.pdf

〈災害記憶消滅世代の認知度〉

15～18歳(震災当時2～5歳)世代で、県外最終処分を「知っていた」のは県内外ともに**3割**（東京：31.2%、福島：28.5%、2023-2024）

→県内外の認知差がなく、災害記憶消滅世代とそれ以上の世代との間に**「記憶の断絶」**

出典：東日本大震災・原子力災害伝承館、国立大学法人東京大学
https://www.fipo.or.jp/lore/lore_cms/wp-content/uploads/2024/05/災害記憶消滅世代調査プレスリリース（東日本大震災・原子力災害伝承館）.pdf

1．学生ワークショップ開催の経緯

福島大学 協働プロジェクト学修
福島大学生に伝わる除染土処分の紹介を考える

活動目的

2045年までに県外最終処分が決まっている除染土について、私たちが分かりやすく伝え、福島大学生に興味・関心をもってもらいたいという思いをもち、活動しています。

活動内容

・毎週火曜日昼の集まりで、今後の予定を話し合う
・イベントへの参加
・SNS更新
・フィールドワーク（9月19日,26日,27日）
・ポスター作成

フィールドワーク

・夏休みを利用してフィールドワークを実施
・9月19日は長泥行政区、福島県庁
・9月26,27日は一泊二日で、リプルンふくしま、大阪大学等の学生との交流会、中間貯蔵施設、双葉町の見学

参加したイベント

飯舘村では、震災以前の「花の里」復活を目指し、2022年10月から長泥行政区に花木を植える活動が行われている。

除染土についての学び

2045年県外最終処分の認知 → 解決への最初の一歩

長泥地区除染土再利用実証事業 → 最終処分量低減の鍵

SNSについて

私たちはSNS（Instagram,X）を活用し、活動紹介や除染土に関する情報の発信を行っています。

これからも分かりやすい情報発信を心掛け、除染土に関する様々な情報を発信していくとともに、SNSを通して様々な方の意見を聞くことが出来ればいいなと思っています。

@FUKUSHIMA_JYOSENDO

フィールドワークの感想

【長泥地区】
・長泥地区が「花の里」と呼ばれていたことを知った
・再生利用の実証事業を行っていることを知った
・栽培の実証事業での放射性セシウム濃度はかなり低いことを知った

【福島県庁】
・県庁の取り組みや県外最終処分に対する思いを知ることができた
・再生利用に関してもやはり、県内外で行うべきことである
・福島県にだけ強いるべきではないと改めて思った

【リプルンふくしま】
・体験型であるため、イメージがしやすかった
・特定廃棄物埋立処分場施設見学の際、環境省の特定廃棄物等運搬車を見ることができた
・海外からの訪問者の中で、一般の方はほぼいないことを知った

【交流会】
・関西の大学学内でも興味・関心がない人が一定数いることを知れた
・福島県に原発は必要かどうか、再生可能エネルギーだけで大丈夫なのかといった議論をして、視野を広げる良いきっかけとなった

【中間貯蔵施設】
・バスで外を見ると土嚢がまだある場所があった
・サンライトおおくまには当時のパソコンや車があった
・水産試験研究所跡は海側の屋根がなく、津波の恐ろしさを感じた
・道路は普段のものより厚く作っていることを知った

【双葉町】
・役場が市役所のように大きかった
・ごみ回収がほかの地域よりも厳しいことを知った
・復興公営住宅の中を見せていただき、中々見ることができないため、貴重な経験になった

イベントの感想

【第2回植樹祭】
・立場に関わらず長泥地区の復興を強く思う気持ちは皆おわらないことが伝わった
・交流の場では、長泥地区での日々の暮らしやご家族についての話を聞けた

【みらいバス】
・被災12市町村以外の除染土の輸送はほぼ終了したことを知った
・中間貯蔵施設エリアの内、7割は国に土地を売っていたことを知った

今後へ向けて

・SNSのフォロワーを増やしていき、除染土に関する事について多くの人に興味・関心をもってもらう
・福大生に興味・関心をもってもらえるようなポスターを作成する
・1月24日にある最終発表へ向けて、これまで学んで来た知識をもう一度復習する
・福大生に除染土に関するアンケート調査を行ってみたい
・他大学との交流を今後も継続していきたい
・学生ワークショップについてのお誘いを受けたため、そのことについての話し合い

2023年度
「ふくしま未来学
協働プロジェクト学修」にて

福島大学の学生に伝わる除染土処分の紹介を考えた

１．学生ワークショップ開催の経緯

昨年行った活動を通じて、福島大学の学生だけに伝えるという目標は、除染土処分の問題を前に進めるには十分ではないことに気付いた

他大学の学生も参加する形の
ワークショップを企画し、環境省に提案

2．学生ワークショップの特徴

学生が主体となって企画・運営するワークショップ

福島大学の学生

天野俊(4年、経済経営)
尾形航祐(4年、経済経営)
高橋諭司(4年、経済経営)
奥山泰冴(4年、共生システム理工)
久保田苺吹(2年、行政政策)

福島大学の指導教員

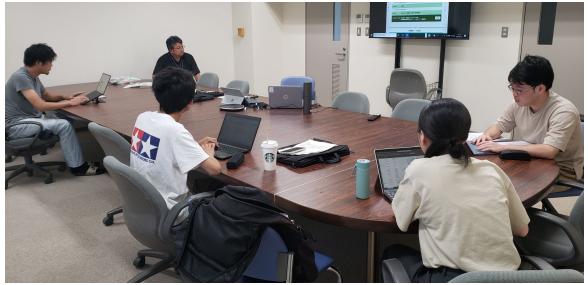
沼田大輔先生（経済経営学類 教授）
齋藤毅先生(教育推進機構 コーディネーター)
鈴木敦己先生(教育推進機構 特任助教)

実行委員会

＋

共催

環境省　環境再生・資源循環局
福島大学　地域未来デザインセンター
福島大学　「地域×データ」実践教育推進室
北海道大学　サステナビリティ推進機構
九州大学　資源循環・廃棄物工学研究室
福岡大学　水理衛生工学実験室



2．学生ワークショップの特徴

＜学生ＷＳ募集チラシ（実行委員会作成）＞

https://www.daisukenumata.com/lecture/zyosendo_gakuseiws.pdf

公募は行わず、各地域の参加学生数に定員を設けた上で、主に実行委員会のメンバーと繋がりのある大学から学生を募集

理由・参加学生の地域等の偏りをなくすため
　　・初のワークショップ開催経験であり、混乱が生じないようにするため

7都道府県12大学の学生29名が参加

2．学生ワークショップの特徴

【参加大学】
- 北海道大学
- 公立はこだて未来大学
- 東北大学
- 福島大学
- 東京大学
- 上智大学
- 慶應義塾大学
- 京都大学
- 立命館大学
- 神戸市外国語大学
- 九州大学
- 福岡大学

【参加者の研究分野】
- 経済経営学
- 農学
- 情報システム科学
- 理工学
- 言語学
- 医学
- 人文社会学

など

【参加者の学年内訳】

1年生...5人
2年生...7人
3年生...4人
4年生...5人
院生...8人

計...29人

異なる属性の学生を集める形で5つの班を編成、
ワークショップ期間中は班を中心に活動

3．学生ワークショップのプログラムと意図

日付	活動内容
9/18(水)	・伝承館見学 ・浜通りの紹介 ・アイスブレイク ・国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構　万福裕造先生　講演 意図：**福島の震災前と震災被害について学ぶ** 　　**除染土について基礎的な知識を学ぶ**
9/19(木)	・中間貯蔵施設見学 ・震災遺構・浪江町立請戸小学校　見学 ・飯舘村長泥地区環境再生事業エリア　見学 ・学生同士の議論 意図：**除染土について現状とこれからを、現地を見て学ぶ** 　　**震災・事故の記憶の伝承について学ぶ**

3．学生ワークショップのプログラムと意図

日付	活動内容
9/20(金)	・大熊町役場環境対策課　東裕行生活環境係長　講演 ・環境省：環境再生・資源循環局　戸ヶ崎康企画官　講演 ・国立環境研究所　大迫政浩先生　講演 ・福島大学　加賀谷環復興支援専門員　講演 ・東京大学　公共政策大学院客員研究員　堀史郎先生　講演 ・環境省との対話 ・学生同士の議論 意図：**立場の異なる人との交流を通じて、多角的な視点から除染土を考える**

3．学生ワークショップのプログラムと意図

日付	活動内容
9/21(土)	・とみおかアーカイブ・ミュージアム見学 ・廃炉資料館 ・福岡大学　工学部社会デザイン工学科　鈴木慎也先生　講演 ・発表物づくり
9/22(日)	・発表会 ・発表の振り返り ・今後の活動の話し合い 意図：**学生がワークショップで得た学びをもとに、除染土の未来についてアイデアを出す**

4．学生ワークショップの成果

【↑　伝承館での見学の様子】

全国各地から集まった学生が**実際に現地を見て**、震災や除染土について学ぶことができた

【長泥地区での見学の様子　→】

4．学生ワークショップの成果

【 ←他大学生と一緒に昼食 】

【 ↓ 5日目の発表に向けた学生の議論の様子】

学生から主体的なコミュニケーションや学びが生まれた

⇓

学生主体のワークショップ

4．学生ワークショップの成果

1班

ロードマップ

	再生利用	再生利用＆最終処分	最終処分
① 入口	花壇プロジェクト	話題を増やす	
② 共感	福島を訪れるツアーの開催	福島の現状をCMで流す	
③ 知る	大学生主体でPR動画の作成	ワークショップの開催	

8

2班

04 アウトプット① 各主体ができること

関心ある国民

自治体

模擬リスクコミュニケーション

あるリスクについてその関係者の間で情報を共有・意見交換すること。

各自治体が住民とともに
「地元が最終処分の候補地になったら」を
自分ごと として考える機会を作る。

目的

地域の問題を議論する土台を作ること

3班

案1：サイエンスコミュニケーション

・理解促進を通じた，円滑な社会的コミュニケーション
・学生の「発信力・安心感」

学生が自身の居住地域で講演

受講学生：
近い立場から先入観なく理解できる

講演学生自身：
自分に合わせ理解し直す「学びほぐし」

費用を補助

4班

【修学旅行プラン】

除染土関連
ホープツーリズム

従来ホープツーリズム
＋
ホープツーリズム型
修学旅行
＋
その他文化等

自分の目で実際に見てもらう

5班

寺子屋（対話学習）

公民館等で実施

親子コース

５０分
小学生コースの内容で親子でディスカッション

ふれあいコース

５０分
地域のコミュニケーションの場
簡単な問いについて話し合ってもらう

5．学生ワークショップ後の活動

学生ワークショップ終了後も活動を継続するために、
12月に**「活動報告会」**を設定

→ワークショップ最終日に班を再編成
　以降は新たな班で活動

〈新たに編成した班一覧〉

- 北海道班
- 新一班（本州1班）
- 本州2班
- 東京班（本州3班）
- 本州4班
- 九州班

・北海道地方、九州地方はそれぞれ同地方の大学の学生で班を編成
・本州は地方によって参加学生数に偏りがあったため、学生の意向で地方合同の班を４つ編成
・福島大学の実行委員会の学生は本州班にそれぞれ参加

5．学生ワークショップ後の活動

＜各班の活動概要＞

北海道班
大学での講義やポスター展示、学生イベント主催

新一班
カードゲームを使用したオンラインWS

本州2班
キャラクターを使用した除染土の情報発信

東京班
寺子屋形式の講演会提案

本州４班
除染土に関する動画作成

九州班
留学生へのディスカッション（震災や津波、除染土）

・SlackやZoomを活用し、各班の活動の様子や各学生の近況などを全体で共有

5．学生ワークショップ後の活動

学生WSを9月18～22日（4泊5日）の日程で行いました！
中間貯蔵施設や長泥地区の見学、環境省との対話や学生同士の議論を通じて、除染土に対する理解を深めることができました。今後学生として何ができるかについて話し合い、私達学生が主体的に取り組んできたことを12月15日の報告会で発表したいと思います。

＜各班の意気込み＞

北海道班
北海道チームは、1人でも多くの人（特に若い世代）に除染土の現状を知ってもらい、考えを持ってもらう事を目標に活動しています。現在、大学での講義、イベントでのポスター展示・発表、学生イベントの主催を計画しています。

新一班
私たちの班では、除染土問題に対してジブンゴトとして捉えてもらうことを目標に、オリジナルのワークショップを開発しました！これを読んでいるあなたも参加してみたくなること間違いなしの楽しみながら学べる内容となってます！お楽しみに～！！

本州2班
この班は、東北大と福島大と慶応大と神戸市外大の学生で構成されています！
私たちは、キャラクターを通じて、除染土の問題を幅広い層の人たちに知ってもらうことを目的として活動しています！

東京班
私たちの班は、様々な地域の学生が集まるグループで、除染土を含む福島の震災について寺子屋形式の講演会を想定して準備を進めています。意義深い内容を伝えられるよう、最後まで全力で取り組みます！

本州4班
私たちの班では、主に学生に向けて除染土問題について一緒に考えてみようという趣旨の動画を制作しています。できる限り難しい言葉を使わず、分かりやすい動画を目指して制作に努めます！！

九州班
除染土について、海外の方にも知ってもらうため、福岡に留学に来ている高校生と、震災・津波・除染土についてディスカッションしました。良い報告ができるように頑張ります。

＜開催場所＞
キョウワグループ・テルサホール
中会議室（あづま）3階
住所：福島県福島市上町4-25
（福島駅東口より徒歩10分）

キョウワグループ・テルサホール　案内マップ
http://www.f-shinkoukousha.or.jp/terrsa/access.html

除染土処分に関する
学生ワークショップ
活動報告会

2024年12月15日（日）
13：30～16：00

キョウワグループ
・テルサホール
3階　中会議室「あづま」

フォームから参加申込